

福島県中学校教育研究会  
特別活動部報

発行令和6年3月1日  
発行所 福島県中学校教育研究会  
特別活動部会  
発行人 渡部正晴

あいさつ



福島県中学校教育研究会  
特別活動専門部長  
渡部正晴

令和5年度は、4年ぶりに参集型の県大会を開催できました。10月5日(木)に、いわき市立錦中学校を会場として、授業参観、授業の反省と意見交換、各支部の資料についての協議と、以前の形に戻しての開催でした。当日の公開授業は、2年生全員による集会形式で行われました。集会形式ということで、参加者にとってはどのような授業が展開されるのか、とても興味がありました。稲川知子先生をはじめ、学年団全員の先生方で1年間をかけて生徒を育て、リーダーの生徒を中心に自分たちで発表、話し合いができており、素晴らしい授業でした。授業後は自評、提案授業についての意見交換を行い、福島県教育センター指導主事・赤津 功先生からご助言をいただきました。いわき地区の先生方が準備万端に整えておいてくださったこともあり、とても充実した研修会とすることができました。改めて会員の皆様に御礼を申し上げます。

さて、研究主題の取組も2年目を終えることとなり、来年で一区切りとなります。この2年間で主題に迫ることができているのでしょうか。新しい〈令和5年度組織〉

役職	氏名	地区	所属校	役職	氏名	地区	所属校
部長	渡部 正晴	福島	吾妻中	副部長	遠藤 康成	県北	岩代中
総務 研究委員長	鈴木 直	福島	福島三中	副部長	川上 一美	県中・南	棚倉中
				副部長	田代 茂	会津	塩川中
会計	鹿目 秀樹	福島	清水中	副部長	新井 達也	浜	磐崎中

〈各支部特別活動専門部長〉

支部	部長名	所属校	会員数	支部	部長名	所属校	会員数
福島	渡部 正晴	吾妻中	11	東西しらかわ	川上 一美	棚倉中	19
伊達	内谷 忠広	梁川中	7	北会津	高橋 祐一	若松四中	12
安達	遠藤 康成	岩代中	6	耶麻	田代 茂	塩川中	4
郡山	菊池 博基	小原田中	20	両沼	野口 幸哉	金山中	1
岩瀬	濱津 太	天栄中	26	南会津	松田 吉弘	田島中	25
石川	金賀 大	浅川中	14	相双	小林 邦彦	磯部中	78
田村	伊藤 啓之	都路中	47	いわき	新井 達也	磐崎中	35
計							305

※ 会員数は所属会員数

リーダー像を定め、そのリーダーを中心とした集団活動を通して、よりよい集団を形成することが最終目標です。先日、ある研修会で講師の先生がお話をされていたことですが、「生徒一人一人の役割を明らかにし、その役割を果たすことに全員で関わっていくことが集団を作ることになります。役割を果たしていく活動を生徒に任せ、教師は褒めたり、指導したり等をして支えながら結果を大切にしましょう。そして、生徒自身が自分の活動を振り返り、自分の気持ちを大切にできるように関わっていきましょう。」とありました。来年度の実践の参考になるのではと思い紹介しました。私たち教師は、集団のリーダーを育てることと同時に、集団を作っている構成員の存在意義を明らかにして、活動を指導したり承認したりすることをします。特別な活動をするものではありません。ただ、指導者が何を考え、どのように生徒を導いていくのかはとても重要です。その部分に焦点を当てて取り組んでいただきたいと思います。

次年度からは、新しい制度での県大会となります。いわき市の先生方にお世話になり、いわき市立湯本第一中学校を会場に特別活動部会が開催されます。各支部の会員の皆様の意欲的な研究実践により、充実した研究協議会になりますことをご期待申し上げます。

最後になりますが、本会報の発行をもって令和5年度の県中教研特別活動部会の全事業を終えることができました。役員並びに会員の皆様の御協力に心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

# 令和6年度の研究推進について

## 1 研究主題・副主題

『様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を目指す生徒を育む指導はどうすればよいか』

令和6年度副主題

「集団や社会の一員として、将来や自分らしい生き方を創造する力の育成」(3年次)

## 2 昨年までの研究から

2年次においても各支部において研究が進められ、10月に開催された中教研のいわき大会において研究の成果が発表された。提供授業では、「発表会成功のためによりよい話し合いをしよう」を活動テーマによりよい集団と人間関係を形成するための話し合い活動が提供された。また、安達・岩瀬・相双・いわき支部からの実践発表が行われ、リーダー育成や話し合い活動についての議論がなされた。2年次の研究の成果は、以下の3点である。

第一に生徒会本部が中心となり、校則の見直しなどを進める実践が多く提供されたことである。校則の見直しを通して、生徒たちが自らの学校生活を見直すきっかけが生まれつつある。

第二に、強いリーダーシップをとる生徒が見られない現状の中で、新しいリーダー像が定着し、学校教育のさまざまな場面で活躍する複数のリーダーが見出されるようになってきたことである。

第三に、話し合い活動において指導者側が意図的に話し合いを仕組んできたことで、話し合いの中で生徒同士が合意形成の在り方を学び、さらに学校の課題そのものへ目を向けることができるような実践が報告されたことである。

課題としては、集団における「所属意識」をどのように醸成していくのがよいのかという点について多く上げられた。特に、集団の取り組みや課題を「自分事」として捉えさせるための取り組みをどのように創りあげることが主な課題となっている。

## 3 研究副主題について

令和4年度～6年度を見通して、1年次で親密な関係の「集団」を創り上げることに取り組んだ。2年次で集団の抱えている諸課題

を見つけ出し、解決していく過程を通して、「集団活動」を創り上げることに取り組んだ。3年次では、今まで学習してきたことを基に、「現状分析→方針提起→集団決定→実践→総括」というサイクルを動かし、集団の所属員が決定に参画していくことで、「よりよい社会を目指す生徒の育成」に取り組むこととしている。

### (1) 「集団や社会の一員」について

3年次の研究は、1年次・2年次で創りあげてきた集団のもと、集団の一員としての自覚をもって、集団を変革していくことを通して、学習指導要領における特別活動の目標(3)に書かれている「集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成する」力を育成しようとするものである。

2年間の研究を通して、「集団」と「集団」におけるリーダー指導のあり方や「集団」内の居場所づくりや活動を行う際の合意形成について研究を進めてきた。しかし、合意形成のプロセスや集団の活動などについて「自分事」として関わることにに関して、十分に達成しているとは言い切れない。

#### ① 指導の在り方の再検討

自らの将来像や自分らしい生き方を創造していくためには、集団活動における「決定」のあり方を考えることが大切である。例えば、行事への取組が「例年通り」の言葉のもと「効率化」を優先させるために、みんなで話し合っただけでアイデアを出したり、工夫を考えたりする経験が不足しているようなことはないだろうか。その結果、生徒たちにとって集団活動が「やらされる活動」となり、「自分事」として考えることができなくなっていないかという点について、常に指導を見直す必要がある。

#### ② 「原案」の作成と指導者の関わり方

指導者側が生徒たちへの指導方針を共有しリーダーたちを育てる仕組みを創りあげ、集団を代表するリーダーたちと共に集団の状況や課題について分析を行い、子どもたちの願いや要求などを取組の「原案」として具体化できるように指導を組み立ててい

くことが大切である。「原案」を作成する段階で指導者は、リーダーとの対話を十分に行うことが必要なのは言うまでもない。

### ③ 「原案」を「決定」に導く

リーダーが中心となって、作成された「原案」を学年や各学級などの諸集団で討論を重ねる。リーダーを中心に、生徒たちが原案を提案し、決定していくように指導者側は注意を払いたい。そのためには、「現状分析→原案作成→討論→決定という流れ」を身につけることが大切である。もちろんこの過程はすんなりといかず、何度も話し合いが必要である。だが、こうした経験を経ることが、集団や社会を自分たちのこととして認識する第一歩になると考えている。

註)「社会」に関しては、いくつかの集団をあわせた「集団」として理解し、広い意味としては使わない。

註)総括に関しては、紙面の都合で割愛したが、新年度に新たに書き起こす予定である。

## (2)「将来や自分らしい生き方を創造する力」について

副主題の「将来や自分らしい生き方」とは、生徒が大人になることだけを意味していることではない。学校生活における次の学期とか、次に行われる学校行事などでも構わない。もちろん生徒たちが大人になる20年後、30年後も含められることは言うまでもない。そのように考えると近い「将来」から遠い「将来」までを対象としている。近い「将来」を例に、所属している集団で考えてみたい。「将来や生き方」を考えるためには、自分自身が集団に所属しているという実感がなければならない。昨年度までの研究を通して、一人一人の居場所をつくり、その上で集団の課題を見つけ、解決する過程を通して、生徒は集団への所属感を強めてきた。最初生徒たちは集団に所属する際、様々な願いや希望を持っている。その願いや希望を集約しつつ、それを集団の願いや希望に高めることが、どのレベルの集団でも必要であろう。その上で、集団としての目標が設定されるべきである。集団成員の願いや思いを元に作成された目標を達成するために、常にその目標を振り返り、どこまで進んでいるかを確認する作業が必要となる。

具体的には、次のような活動が考えられる。

○学級目標（3月の卒業もしくは進級時までになっていた学級の姿＝理想の姿）に対して、学期の最初の段階で、その学期の具体的な活動を通して、どのように成長していきたいかを確認する。

○各行事の前に、学級目標に照らして、どのように取り組むかを話し合っ決定する。行事が終わったら、目標に対して、「達成できたこと」「達成できなかったこと」を確認し、集団の前進面と課題となった面を集団として確認する。

このような話し合いを行うことで、集団の目標や課題が自分の将来として考えられるのではないだろうか？

前段の活動を続けていくことで、集団内における成員の自己有用感（成員が集団に必要なとされている気持ち）を高めることができる。活動において、一生懸命に努力した生徒に対する指導者や集団の他の成員からの評価があつてこそであることは言うまでもない。さまざまな活動の中で、評価される生徒が増えていくことで、自分に対する自己肯定感も高まっていくと思われる。

このような活動を継続していくことで、生徒は、自分の夢（将来の就きたい職業ではなく、漠然としてでも構わないのでこんなことをしてみたいということ）を持つのではないか。そして、その夢を実現させようとする前向きな気持ちを持ち続けることが、「自分らしい生き方」につながると思われる。

註) ページの制約から具体的な事例を出すことができなかった。来年度に行われる主題報告会では、より具体的な事例を出すことで研究が深められるようにしたい。

## 4 令和6年度の研究の内容と方法

### (1) 研究内容

研究にあたっては、次のような実践が考えられる。

- ① 集団の現状分析→課題を発見→課題解決を目的とした集団活動の創造→実践を総括していく活動（生徒の自発的、自治的活動に視点を置く）
- ② 自分たちできまりをつくって守る活動（集団におけるよりよい生活のために自分たちで決定したり、変更したりすることを通して、集団の形成者としての自覚を高めることができる。）
- ③ 大きな集団の目標から、活動の段階に

応じて小さな活動目標を設定し、総括をしていくことで、大きな目標につなげていく活動

- ④ その他、集団内の「自己有力感」や「自己肯定感」を高め、将来を考えさせる活動など

## (2) 研究方法

- ① 各学校や学級の集団の実態に基づき研究内容の明確化を図り、自発的、自治的活動に視点を置く。
- ② 研究主題や副主題の共通理解を深め支部内や学校内での情報交換や課題を共有し、研究を深める。

令和6年度  
いわき大会 会場校紹介

「伝統を継承し新たな価値の創造を目指して」

いわき市立湯本第一中学校



いわき市の中央部に位置する湯本町は古くから湯治場として知られており、本校は常磐湯本温泉街の一角にあります。常磐炭鉱が閉山して久しいですが、現在も週末は観光客や地元のプロサッカーチームを応援する人々でにぎわう温泉街が学区にある学校です。昭和22年に開校し、間もなく創立80年を迎える伝統ある中学校です。

本校の教育理念は人づくりです。教育目標には人間性や創造力、たくましい心と身体の育成が掲げられ、自ら未来を切り開き、地域や社会で活躍する人材を輩出するために、生徒の自主性を重んじ自己実現の機会を大切にしています。様々な体験活動を通して、生徒一人一人のキャリア発達を支援し、望ましいキャリア形成が図れるよう学校行事などにおいては、生徒の主体性を意識した取組を行っています。特に、日頃から応援していただいている地域の方々との交流を大切に、毎年11月に開催される「湯の街学園祭」への参加や地域人材を活用した地元の文化・歴史の学びの時間を設け、地元愛や地域の方々への感謝の気持ちを育てています。また、ボランティア活動を推奨し、校外でのボランティア活動への参加を積極的に働きかけています。

本研究公開を機に、特別活動においては学級活動の話し合い活動に力を入れ、全学年で取り組んでいます。学級や学年の課題について、話し合いによる合意形成や意思決定の場を大切にしながら、よりよい集団づくりを目指し生徒の主体的な学習活動へつなげる取組をしています。

発表の機会をいただいたことへ感謝いたしますとともに、研究の成果として実りある研究公開ができますよう準備を進めてまいります。

〈令和6年度以降発表支部割当予定表〉

	令和6年	令和7年	令和8年
発表	石川	東西しらかわ	伊達
支部	田村	北会津	郡山
	耶麻・両沼	福島	南会津

〈令和6年度予定〉

5月10日	県専門部総会（主題研修）	福島市
7月下旬	各支部研究協議会（夏季）	各支部
10月4日	県研究協議会いわき大会	湯本一中
10～11月	各支部研究協議会（秋季）	各支部
1月下旬	支部長会議	郡山市
3月上旬	部報発行	